

3-3 建築設計事務所

建築士法というものは、特にないので、設計資格制度はないと見てよい。只、Association des Ingénieurs Malgaches というコンサルタント協会らしきものがあり、メンバーは、全国で合わせて、10~15人程度である。

付-4 建設

4-1 建設資材

1) 一般

建設資材のうち、現地産品目は、セメント、骨材、木材、コンクリートブロック等、極小数に限られており、その他は全て、輸入に頼っている。併し、セメントも国産だけでは、需要を満し得ず、輸入に依存せざるを得ない状況にある。一般材の輸入先は、主に、フランス、その他のヨーロッパ、南アフリカ等である。

又、輸入材の国内ストックは、ほとんどなく、必要に応じ、その都度手続きを経て、外国から、購入する事になるので、入手に時間がかかる。

従って、今回のように、工期の短い建設工事に当っては、建設資材の計画的調達、極めて重要なポイントになり、大半の資材を、日本から持ち込む結果になる事が、予想される。

2) 現地材

セメント：MAHAJANGA (旧マジュンガ) に工場があり、年産 6万トン程度と言われている。但し、現況としては、国内需要を賄い切らず相当量、輸入に頼っている。

骨材：砂は、現場付近で調達できるが、良質とは言えず粒子の細かい泥をかなり含んでいて、コンクリート強度に、かなりの影響があるものと思われる。但し、塩分は含まれていない。骨材は、碎石が一般で各地に碎石プラントがある。

木材：建築用建具、家具用材は、現地産の堅木によっている。又、コンクリート用型枠材も、現地産を用いているが、パネル用板材は、輸入合板を、使用するのが一般のようである。

G. I. S : 亜鉛メッキ鉄板は、TOAMASINA (旧タマタブ) で、加工生産されている。一般に、屋根材、壁材として、使用されている。波型、瓦棒型、長尺型等があるが、板厚が薄い。

レンガ：一般に原地生産で、建築材の主流を成しているが、地方によっては、全くレンガを使用しない所もある。

イソレル：原料は、木のチップで、板状に固めて、ボードとして使用するもので、最近、工場が出来、生産が始まった。

ペイント：国内生産をしている。

尚、これらの現地生産材は、質、量共に十分なものではなく、輸入品と、両立して需要に応じているが、国産材と同種材の輸入については、制限が課せられているので、注意を要する。

国内生産建設資材表

(単位：Net Ton)

	1973年	1974	1975	1976	1977
セメント			58,021	69,904	52,229
波型鉄板(加工)	9,018		4,734	3,122	6,086
釘(加工)	1,484		736	322	565

(Statuion Economique Jan. 1. 1978)

3) 輸入材

2) に掲げた国産品以外は、全て輸入材となっているが、その主な材料は、下記の通り

鉄筋・鉄骨・スレート・合板・ボード類・メタルサッシュ・陶タイル
ガラス・建築金物類・設備用配管材・衛生陶器類・電線・照明器具等、

以上は、主にヨーロッパ、特にフランスより輸入しているが、材料によっては、南部アフリカより、輸入しているものもある。輸入品及び、輸入数量の推移は、下表の通りである。

輸入建設資材表

(単位：Net Ton)

	1973	1974	1975	1976
製板及合板	455	427	665	203
セメント	43,496	26,891	50,986	23,892
鉄・鋼板	5,532	5,385	10,475	2,803
帯鉄・鋼	2,573	3,108	2,104	1,885
熱延導板共 (表面未処理)	65	151	157	82
冷延導板鉄	301	375	402	334
亜鉛鉄板 (0.5%以下)	1,744	2,261	3,901	1,903

	1973	1974	1975	1976
その他鉄板類	1,132	2,443	1,992	1,371
鉄、鋼線	2,372	3,416	3,098	2,429
鋳造鋼板	14,786	17,804	11,824	7,881
鉄・鋼パイプ	2,339	2,872	2,557	2,079
鋼管、パイプ 等付属品	318	540	1,165	845
その他、建設 用鉄、鋼材	1,025	788	498	354
トタン、重鋼	232	176	350	130
ボルト、ビス	410	245	574	301
道路工事用 GIシート、パイプ	664	1,940	671	74
粗、屑アルミ	908	529	484	656
電線	599	279	373	411

(Situation Economique Jan. 1. 1978)

4) 輸入材の調達

輸入は、専門の国営輸入公社 (ROSO, SOMACODIS, SICE, COROI) 或いは、民営輸入会社を通して、行なわれるのが、一般のようである。

外貨支出制限が厳しく、発注に当っては、発注根拠 (例、工事契約書等) を示した上で行なう事になり、輸入手続き輸送期間を含めると、材料入手までには、かなりの時間がかかる様である。

勿論、材種によっては、全く、何時入手出来るか予想出来ない事も、現実としてある様である。

大手請負業者の中にはこれらの輸入材でも、鉄筋等一般的な材料は、ストックしている場合があり、応急的処理は、可能だと称している。

4-2 建設工事費

1) 工事積算用資料

積算用資料として、公共事業省で発行している「建築請負価格資料—1962年版」(SÉRIE DES PRIX—1962, Applicable aux Travaux de Bâtiment à MADAGASCAR) がある。

これには、労務単価、標準歩掛り、材料単価、工事別単価が集大成されている。但し、1962年版以降の新版は作られていないので、単価は、

参考にならない。

現在の建築工事費は、この1962年版工事量に対して、平均で2.8~3.2倍といわれているが、これは、あくまで平均工事費であり、工種別単価は、それぞれ倍数が全く違っている様である。ちなみに現在の単価と1962年版単価を比較すると、

セメント	3倍
鉄筋	3倍
設備配管材料	5倍
衛生陶器類	5倍
人夫賃	2倍

といった具合である。

従って、現在行われている実際の工事費は、工事数量積算の上市場価格をもとにして積み重ねた金額で行なわれている。

2) 材料単価

一般的に現地生産材は、安い、輸入材は、輸送費分がいのま当然である。尚、全般的に品不足の為、価格は不安定である。

以下、主な建設資材の卸売価格の推移に於いて、統計局発行のSituation Economique 1978年1月歩より抜粋する。

ANTANANARIVO. 建設資材卸売価格

年平均(MFG)

	単位	1974	1975	1976	1977
鉄筋 (φ10×12m)	100kg	10,607	13,902	12,053	12,525
圧延鉄板 (2m×1m×2mm)	"	15,368	17,393	12,784	17,033
亜鉛加工手鉄板 (200×100×0.1)	枚	2,184	2,765	2,720	3,000
亜鉛加工並鉄板7/10 (200×0)	"	1,374	1,512	1,820	1,793
輸入セメント	トン	17,224	21,955	22,162	---
国産セメント	"	14,704	19,756	20,870	20,870
板ガラス (60×100)	m ²	1,376	1,653	1,525	2,777
合板 (6mm) RB	"	880	1,460	1,607	1,617
被覆電線 12/10	100m	1,919	2,690	—	2,83
白熱電球 100W (スタンダード)	100個	9,500	14,683	14,700	—

3) 労務単価

権威ある資料はなく、役所、業者、等からのヒアリングデータのみであり、巾はあったが、おおよそ次の様な単価が得られた。

建設労務者	1日当り (FMG)
Common Labour	460
Technician	560
Foreman	560~1500
Engineer	2,000~4,000
一般労務者	1ヶ月当り (FMG)
女 中	10,000
運転手	12,000~15,000
タイピスト	40,000~50,000

尚、労働法により、最低賃金制度がある事、労働者保護に関する政策が、手厚い事等は、特筆される事項であろう。

4) 工事別単価

現在、ANTANANARIVO (田タナナリブ) で建設中の代表的なビル*の主な工事別単価は、下記の通り。

*官庁ビル：RC造11階建 延面積 7,500m²

名 称	単位	マダガスカル (FMG)
掘削	m ³	620
躯体コンクリート	"	20,000
鉄筋	t	290,000
型枠	m ²	1,150
コンクリートブロック ア18cm	"	2,500
モルタル塗(壁)	"	850
モザイクタイル	"	6,600
木製ドア	"	14,400
アルミサッシュ	"	44,000
ガラス 3%	"	3,800
V.P & O.P	"	500
白ガス管 2'	m	6,100
洋便器	ヶ	57,600

おおよそ言える事は、現地産材使用工事、労務費の占める工事は、日本より安い、輸入材使用工事は、日本より高く、特に、鉄筋工事、サッシュ工事に著しい。

5) 建設コスト

建築では、一般にコストの見当をつける為に、床面積当りの単価を一つの目安にする事が多いが、マダガスカルでは、この意識が、あまりなく十分なヒアリングは出来なかった。

併しおおよその見当では、首都近郊で床面積1㎡当り単価は下記の通りである。

住宅(中～高級)	50,000～80,000FMG
一般事務所	60,000～70,000
高層事務所(8～9階)	90,000～100,000

このコストには、仮設工事、諸経費が、含まれていると見てよい。但し別に触れる取引税(TUT)10%分は含まない。又、地方の工事では材料の輸送費分で10～20%これより高くなるのが一般のようである。以上のコストは、日本のおおよそ半額に近いが、理由としては、次の様なものが、あげられよう。

- ・建物の躯体構造が華奢である。
(地震がほとんどない為)
- ・建物の躯体、仕上のグレードが低い。
- ・設備、特に、電気、空調のグレードが低い。
- ・労務費が極めて安い。
- ・材料の品質が悪い。
- ・施工技術が稚拙である。

従って、日本の半額といっても居住性の悪い、安全性の低い建物との比較であって、同質のものとの比較ではない事を銘記すべきであろう。

4-3 建設業者

1) 大手業者

官報によれば、全国で、官庁指定の土木、建築工事に携わっているいわゆる建設業者は、全国で大小合わせて、おおよそ80社程ある。大手としては、下記のものがあげられる。

勿論、この大手は、首都を中心に活躍している会社である。

大手業者

Société d'Interêt National des Travaux Publics (SINTP)
Société d'Entreprise Générale et

Fonciere de Madagascar (SEGEFOM)
 Société Nationale de Travaux Publics (SINTP)
 Société des Grands Travaux de l'Est (SGTE)
 Entreprise Murri Treres.

大手会社は、フランス系が多いが、上記のうち、SINTPとSEGEFOMは、現地系であり、特にSINTPは、唯一の国営企業である。
 又、これらは、支店を地方に持ち、ある程度の規模であれば（SINTPは1.5億FMG以上と言っている）地方でも工事を行なっている様である。
 尤も、地方業者は、建設機械を持たないから、大規模工事には、手が出ないと云える事もある。

2) 地方業者

ANTSIRANANA 地方業者	※年間最大契約高 (百万FMG)
SECREN	200
Entreprise Laforge	50
Entreprise TAMASI	50
SCAB	25
Entreprise TEBALDINI	20

この他、3社程ある。

* 1977年8月13日付 官報(JOURNAL OFFICIEL)による。

又、年間最大契約高とは、政府関係の工事の制限高を示す。

3) ANTSIRANANA地方の工事概況

大学 図書館	約2000㎡	3階建	SEGEFOM (中央業者)
食堂 ホール	約 300㎡	1階建	SEGEFOM (中央業者)
寮	48室/棟	3階建	LAFORGE (地方業者)
		3棟	
寮	48室/棟	"	SECREN (地方業者)
寮	48室/棟	"	BELAZA (地方業者)
スポーツセンター	約2,500㎡		SECREN (地方業者)
スタジアム			SINTP (中央業者)
病院			RAMIANDRISORJOB (地方業者)

尚、一般的にあって、大手業者は、建設資材の調達、附帯設備工事の直営、建設機械の手持ち等で、その機動力を発揮し得る立場にある事は、間違いない。

付一 5 輸 送

5-1 輸入ルート

マダガスカル国は、いくつかの国際港を持っているが、海外に対する表玄関としての港は、TOAMASINA (旧タマタブ)である。

外国から、送られて来る物品等は、こゝで一担、陸揚げされ、鉄道輸送で首都まで。そこから、トラック等で地方へ輸送されるルートと、港で直接Domestic lineに積み替え、海上輸送で、他の地方へ送られるルートがある。

今回のプロジェクトで、日本から資材を輸送する場合は、後者のルートが一般的に考えられるが、後述の如く、TOAMASINA港での積み替えに多くの問題(ダメージ、粉失時間がかかる等)があるので、直接、プロジェクトサイト近くのANTSIRANANA (旧ディエゴスワレス)港へ運ぶ方法があれば、よりベターである。

併し、この場合は、特殊条件が入るので、サーチャージ等で、船会社とのネゴが必要となろう。

5-2 港湾施設

1) TOAMASINA (旧タマタブ港)

遠洋航路の陸揚量は、こゝ4~5年の統計では、80万t~100万tであり、マダガスカル全港の85%以上を占める。

又、入航(出船)数は、年平均512隻(1.4隻/日)である。沖待ちは、せいぜい7~10日くらいで、14日を超える事はない。

施設は、6バース、最大限9隻が、接岸可能。

80t フローティングクレーン 1台

6t ショアクレーン

3t 電気クレーン 6台

倉庫の容量は、特に問題があるとは、聞いていない。

但し、設備の老朽化、荷役施設の不足、雨季に於ける作業能率の低下、政府物資の取扱い優先、粉失等の諸問題は、この港に於ける特筆事項である。

2) ANTSIRANANA (旧ディエゴスワレス)港

陸揚量は、年平均6万t前後で、年間入船(出船)数は、120隻程度、ポートコンジェスションは、殆んどない。

2.5ton フォークリフト 2台

5ton ショアクレーン 1台

8 tonモビールクレーン 1台 (SECREN所有)

保税倉庫 2棟 計4000m²収容可能

港の利用実績	外国船	国内船	計
		()内は定期便数	
1978年	10月 12(2)	11(8)	23(10)
"	11月 8(3)	27(10)	35(19)

5-3 その他の輸送施設

1) 鉄道施設

国際港TOAMASIA (旧タマタブ)と首都、ANTANARIVO (旧タナナリブ)を結ぶ線。

MORAMANGA-ALAOTRA湖を結ぶ線

MANAKARA-FIANARANTSOAを結ぶ線

があり、その総距離は、876kmである。

車輛が少ない上に、故障等で、動かない車輛もあって、利用効率は、非常に悪い。

又、施設も古く、脱線事故も、かなりあるとの事である。

2) 道路

道路は、全体で、約40,000kmあるが、自動車走行可能距離は、約8,400km、但し、雨期(11月~4月)には、寸断され走行出来ない場合がしばしばある。

従って、地方によっては、物資の運搬に、陸路を期待せず、海送で行なっている例も多い。

3) 航空路

国際空港は、首都のIVATO空港だけであり、ボンベイ、セーシェルズ島、パリ、ヨハネスブルク等と連絡されている。

国内航空路線は、ANTANANARIVO(旧タナナリブ)、TOAMASINA(旧タマタブ)、ANTSIRANANA(旧ディエゴスワレス)、NOSYBE, MAHAJ-ANGA (旧マジュンガ)、TOLIARA (旧チュレール)、TAOLANARD (旧、フォールドーフアン)等の地方主要都市間を継ぐ、ジェット機路線と更に、小さい町を結ぶ、小型プロペラ機による路線とがある。

道路状況が非常に悪い為、人は、ほとんど、航空路利用である。

付一6 税金、建物保険

6-1 国内諸税

1) 法人所得税

(Impôt sur les Bénéfices des Sociétés 略して、I.B.S)

国際協定(二国間、もしくは、多国間協定を含む)を留保し、法人により、マダガスカルに於いて、実現された所得に課せられる。

株式会社の場合、純利益の30%か、一定額、FMG 400,000 + 完工高の、1/1,000のいずれが多い方が、支払額となる。

2) 給与所得税

(Impot sur les Revenus Salariaux et Assimilés 略して(I.R.S.A)

マダガスカルに於いて、獲得したサラリー、手当、報酬等の収入に対して、課税されるもので、3ヶ月以上、マダガスカル国に滞在する外国人も支払い義務がある。

課税規準は、一応あるが、日本人の例として、F.M.G. 150,000/月の申告で、所得税は、F.M.G.17,000/月程度。又、J.I.C.A. 専門家の場合は、R/Dにより、免除されている。

3) 地方事業税(Taxe Professionnelle 略してT.P.)

以前、Patenteと称していた税で、より一般化した内容となり、1978年1月1日付で、施行されたもので、州の財政収入となる。事業を行なう地域の人口、事業所の職員数、機材量、及び、事業所・オフィスの賃貸料などから算定する。

あらゆる経済商業活動に対して、課税されるもので、日本企業が現地に事務所を開設する時登録し、査定を受けねばならない。

4) 車輛登録税

乗用車	登録税 (fixed rate)	F.M.G. 50,000
	Annual tax (proportional rate)	1,000/HP
トラック作業車	" (")	1,000/HP

5) 取引税 (Taxe Unigue pour Transaction 略してT.U.T.)

食糧、家畜、農業用資材、石油類、保健衛生品以外の物資の輸入売買に課税され、税率は、10%と一定。

価格の各々のエレメントにかかるT.U.T.は1回限りとし、T.U.T.の上にT.U.T.のかける事はない。

6) 輸入物資にかかる諸税

一般輸入物資には、通関税 (Droit de douane)、輸入税 (Taxe d'importation)のほかに、消費税(Taxe de consommation)、取引税(T. U.T.)、物品税(Droit sur les marchandises)が、物資によって、夫々、決められた税率でかかる。

6-2 建物保険

マダガスカルには、工事完了後、10年間に発生する瑕疵に対して、保険会社が賠償する保険制度があり、法的に義務づけられたものではないが、一般的に大規模公共工事に、この保険を、かける慣習がある様である。

通常のビルの場合、支払保険料は、工事価格の3%前後である。10年保証を引受ける会社として、マダガスカルには、ただ一社、"SOCOTEC"と云うフランスに本社をおいた会社がある。

そして、保険の対象となる物件に関しては、この会社が、図書審査、チェックを行なうことになっている。

付-7 その他のデータ

1) 気象データ

ANTSIRANANA (旧ディエゴスワレス) 市の気象データで、下記の項目からなる。 ———気象庁より入手———

温 湿 度

降 雨 量

風 向 風 速

雷

サイクローン

2) 地質データ

ANTSIRANANA (旧ディエゴスワレス) 市の郊外に、建設中の大学敷地の地質データの一部。

当プロジェクト、「サイト」から、約10km離れた海岸等。

———土木試験場より入手———

3) 水質データ

ANTSIRANANA (旧ディエゴスワレス) 市の市水道の分析データ。

———水、電気公社 (JIRAMA)

より入手———

4) 敷地利用保証状

当敷地 28.57haは、現在一部私有地を含んでいるが、当計画の目的に従って使用して何ら差支えない旨のマダガスカル政府側の保証状の写しである。

———地方畜水産局長より入手———

1) 気象データ(1)

REGIME THERMOMETRIQUE DE 1957 à 1970 (温度)

	JANV.	FEV.	MARS	AVR.	MAI	JUIN	JUIL.	AOUT	SEPT	OCT.	NOV.	DEC.	ANNEE
Tx	30.2	30.2	30.4	30.5	30.1	29.0	28.4	28.4	29.3	30.3	31.2	31.0	29.9
Tn	22.9	22.8	22.9	22.6	21.4	20.2	19.5	19.4	20.0	21.1	22.4	22.8	21.5
Txa	34.4	33.2	32.7	32.3	32.4	30.9	31.1	31.5	32.1	33.9	34.0	34.6	34.6
Tna	19.4	20.0	20.7	18.8	16.0	15.8	14.9	14.6	16.0	17.5	17.4	20.1	14.6
Tm	26.6	26.5	26.7	26.6	25.8	24.6	24.0	23.9	24.7	25.7	26.8	26.9	25.7

HUMIDITE RELATIVE MOYENNE EN % DE 1941 à 1970 (湿度)

%	82	84	82	76	70	68	66	66	67	68	72	77	73
---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

PLUVIOMETRIE MOYENNE DE 1931 à 1970 (降雨量)

RR	284.6	233.1	182.2	56.8	10.0	12.1	10.6	11.8	6.3	11.0	33.5	134.2	986.2
J	20	18	15	7	4	4	5	5	4	5	7	13	107

REGIME DU VENT DE 1958 à 1972 (風向・風速)

DD	W	W	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	E	E	SE
Vm	14	12	14	19	21	23	26	27	29	29	23	17	21
Vmax	140	122	72	83	126	133	126	126	162	119	86	86	162

Tx = Température maximale moyenne en °C et 1/10è
 Tn = Température minimale moyenne en °C et 1/10è
 Txa = Température maximale absolue en °C et 1/10è
 Tna = Température minimale absolue en °C et 1/10è
 $Tm = \frac{Tx + Tn}{2}$
 RR = Pluie moyenne en millimètres et 1/10è
 J = Nombre de jours de pluie > 0.1 mm
 DD = Vent dominant
 Vm = Vitesse moyenne du vent en Km/heure.
 Vmax = Vitesse maximale instantanée.

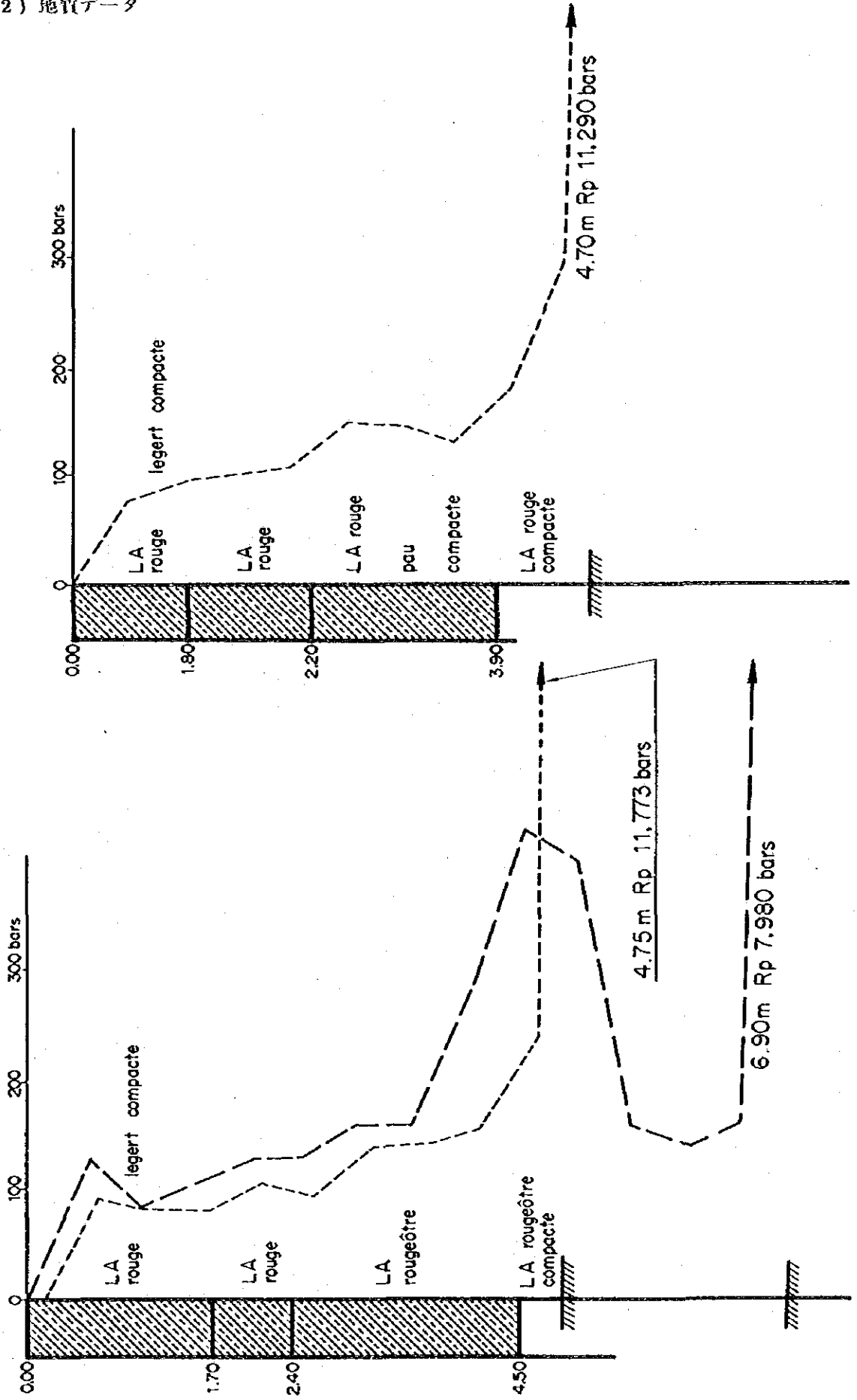
NOMBRE MOYEN DE JOURS DE TONNERRE DE 1941 à 1970 (雷)

JANV.	FEV.	MARS	AVR.	MAI	JUIN	JUIL.	AOUT	SEPT	OCT.	NOV.	DEC.	
14.3	12.6	14.7	5.6	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	2.6	10.9

CYCLONES à DIEGO - SUAREZ

Sur 1013 dépressions ou cyclones tropicaux ayant intéressé directement Madagascar de 1911 à 1971, 8 ont évolué à proximité de Diégo-Suarez, soit 0,79 %.

2) 地質データ



3) 水質データ(1)

LABORATOIRE DES EAUX

Analyse de l'eau prélevée le : Octobre 1978

à : Centrale Thermique

Zône : DIEGO-SUAREZ

	Appoint	Purge
Turbidité gouttes mastic		
Matières en suspension	mg/l.	
Résistivité électrique Ohm/cm	10160	4699
Résidu sec.	mg/l.	93
pH	7,3	7,7
TH°	3,8	7,8
THCa°	1,0	2,7
TAC°	6,4	13,8
Cl ⁻	mg/l.	10,5
SO ₄ ⁻⁻	mg/l.	
Fe ⁺⁺	mg/l.	
SiO ₂	mg/l.	
P ₂ O ₅	mg/l.	
pHs à 50°C	8,6	7,9
Is Langelier à 50°C	-1,3	-0,2
RD ₈		

Tananarive, le 23. 10.78

Le Chef du Laboratoire,

水質データ(2)

Résultats de l'analyse bactériologique V/Réf
 de l'eau de la ville de DIEGO-SUAREZ N°...602 /E à ...603 /E
 Prélèvement du..13/06/78
 Prescrit par....JIRAMA
 Arrivé au laboratoire le ..15/06/78

DESIGNATION DES ECHANTILLONS D'EAU

- N° 1 : Lot n° 7 rue Larouy
 N° 2 : SIM n° 8

N°	Streptoco- ques fécaux par 100 ml	Clostridium sulfito- réducteurs par 100 ml	COLIMETRIE		COLIFORMES identifiés	CONCLUSIONS
			E.Coli à 44° par 100 ml	Coliformes à 37° par 100 ml		
1°)	-	Absence	Absence	Absence	Néant	POTABLE
2°)	-	Absence	Absence	Absence	Néant	POTABLE

Tananarive, le
 LE CHEF DE LABORATOIRE

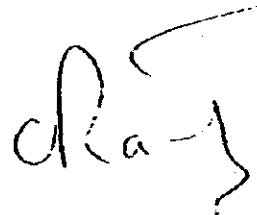
4) 敷地利用保証状

LETTRE DE GARANTIE

Le service Provincial de l'Elevage et de la Pêche Maritime d'ANTSIRANANA, aux vues des lettres d'accord faites par le Fokontany d'ANTANAMITARANA et de M. TSIKANDA concernant la donation du terrain de Superficie totale 28Ha 57A 50Ca, dans l'attente de l'obtention d'une titre définitif (étant données la lenteure des procédures juridiques) garantit, par la présente lettre, l'utilisation du terrain sus-mentionné pour la création du Centre d'Appui Technique de la Mission Japonaise.

Ce terrain est reparti de la façon suivante:

A = parcelle comprise dans "quadruple entente Domaine
T.N°5638 BK7Ha 32A 50Ca
B = "Domaine de la Retraite" T.N°187 BK16Ha 17A 50Ca
C = "TSUKANDA BEKALO" T.N°5744 BK5Ha 07A 50Ca
Superficie totale 28Ha 57A 50Ca



付一 8 収集資料リスト

- 1) Diégo-Suarez地形図 (1/20,000、1/100,000)
- 2) 行政区画、人口密度地図—Carte Administrative et densité de Population.
- 3) マダガスカル全土道路地図 (1/500,000、1/2,000,000)
- 4) 経済白書 (1974&1978) —Situation Economique
- 5) 第一次三ヶ年計画書 (1978~1980) —Premier Plan
- 6) 農業白書 (1975/1976) —Annuaire 1975/1976
Statistiques Agricoles
- 7) 租税法綱領—Code Général des Impôts 1978
- 8) マダガスカル共和国政治、行政、財政、法務、組織 (1970)
L'organisation Politique Administrative,
Financiere et Judiciaire de la
Republique Malgache.
- 9) 政治行政外交関係士録 (1978) —Annuaire du Mond
Politique, Administrative et Diplomatique.
- 10) マダガスカル地理 (1965) —Revue de Géographie.
- 11) マダガスカル概観 (1970) —MADAGASCAR Edition
"Tout Pour l' Ecole" 1970
- 12) マダガスカル地理経済 (1967) —Madagascar-Etude.
Géographique et Economique, 1967

13) 社会経済現況白書 (1964~1968) — Inventaire
Socis économique Tome I & II

14) 道路観光ガイド — Guide Routier et Tourestique

15) 貿易白書 — Statistiques du Commerce
Exterieur du Madagascar.

JICA